

言

義

土木學會誌 第十三卷第五號 昭和二年十月

ハンブルグ港

(第十三卷第一號所載)

會員 工學士 井 上 範

會員木津正治氏報告のハンブルグ港は詳細を極め同港に施されたる各種工事を知る好箇の資料で著者の勞に對して深く謝する處である。ハンブルグ港は歐洲に於て異數の發達を遂げた港の一つであるが是を吾國の最大港神戸と比較するも亦一興であらふと考へ二、三の點に就て對照を試みやう。

輸出入貨物噸數、入港船隻數及び登簿噸數の比較

ハンブルグ港

		輸出入貨物 噸數	入港船 隻數	入港船登簿 噸數	貨物噸數 登簿噸數
1871~1880	平均	3 170 000	5 502	2 206 300	1.4
1881~1890	"	5 496 000	7 015	3 870 000	1.4

神戸港

明治40~大正5	平均	3 432 000	2 585	5 896 000	0.53
大正 6~昭和1	"	5 433 000	3 247	9 255 000	0.58

本表の中ハンブルグ港の噸數、隻數等は Clapp's "The Port of Hamburg" に依る。然し此の噸數は外國貿易貨物噸數をのみ示したものであるか否確實に明記されて居ない。反之神戸の方は外國貿易貨物噸數のみを示したものである。又噸數の計り方も一致しない處があるであらふ。夫故此の二つの表を對照する事は當を得たりや否記者自ら不安であるが敢て著者の教を乞はんとする處である。假に大なる誤がないとすれば輸出入貨物噸數に就て近頃の神戸は1880年代のハンブルグ港と似て居るが、入港船の登簿噸數は神戸の方甚だ大きい。是は神戸では大體載貨の一部が揚卸さるゝ爲めであらう。貨物噸數を登簿噸數で除した比はハンブルグ港の1.4に對して神戸港は0.58となり、他の大港では1.4よりも大なる事もあるが神戸のは少ない方である。

工事費の比較

ハンブルグ港

1814~1880	43 150 000 ^円		(附圖第九十に依る)
1881~1890	94 000 000	累計	94 000 000 ^円

神戸港

明治 21~明治 39	3 346 000 ^円		
明治 40~大正 5	16 555 000	累計	19 901 000 ^円
大正 6~昭和 1	27 812 000	〃	47 713 000

(民設倉庫並に附帯の設備費を含まず)

兩港に略同額の輸出入ありたる 10 年間の工事費に就てはハンブルグ港の (1881~1890) 94 000 000 圓は神戸港の (大正 6~昭和 1) 27 812 000 圓より著しく多く、又港の初頃より投ぜられたる経費 (累計額) に就ても大なる差あるを見る。各種の事情に相違あるにせよ神戸港に投ぜられたる額は充分であると云ふ事は出来ない。